24　　百鬼夜行

助動詞⑨　断定 なり・たり　伝聞推定 なり

夜中ばかりにやⅠなりぬらんと思ふ程に、人々の声あまたして来る音すⅡなり。見れば、手ごとに火をともして、百人ばかりこの堂の内に来集ひたり。近くて見れば、目一つ付きたりなどさまざまなり。人にもあらず、あさましき者どもなりけり。あるいは角生ひたり。頭もえもいはず恐ろしげⅢなる者どもａなり。恐ろしと思へども、すべきやうもなくて居ｂたれば、おのおのみな居ぬ。一人ぞまた所もなくて、え居ずして、火をうち振りて、我をつらつらと見ていふやう、「我が居るべき座に、新しき不動尊こそ居給ひたれ。今夜ばかりは外におはせ」とて、片手して我を引きさげて、堂の縁の下に据ゑｃつ。さる程に、「暁になりｄぬ」とて、この人々ののしりて帰りぬ。

【本文チェック】

①□ａ～ｄの助動詞の、文法的意味を書きなさい。

　ａ（　　　　　）　　ｂ（　　　　　）

　ｃ（　　　　　）　　ｄ（　　　　　）

②　Ⅰ～Ⅲの「なり（なる）」は、Ｘ動詞・Ｙ形容動詞の一部・Ｚ助動詞のどれか。それぞれ記号で書きなさい。

　Ⅰ（　　　）　　Ⅱ（　　　）　　Ⅲ（　　　）

③傍線部について、例にならって係り結びを指摘しなさい。

　（例）　冬こそいと寒けれ。

新 し き 不 動 尊 こ そ 居 給 ひ た れ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　集ふ〔２〕（　　　　　　う）

２　生ふ〔３〕（　　　　　　う）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　つらつらと〔５〕　（　　　　　　　　　）

２　据う〔７〕　　　　（　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　のして、人にく見えむと思ひて、えも言はずだちける者ありけり。（今昔物語集）

　ア　言うほどではない　　イ　なんとも言えないほど

　ウ　言うまでもなく　　　エ　言いたくはないほど

　（　　　）

２　ほどせばしといへども、夜す床あり、昼居る座あり。（方丈記）

　ア　寝る　　イ　過ごす

　ウ　座る　　エ　腰掛ける

　（　　　）

３　朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。（竹取物語）

　ア　座っている　　イ　用意する

　ウ　生えてくる　　エ　いらっしゃる

　（　　　）

４　有り明けのつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし（古今和歌集）

　ア　夜明け前　　イ　早朝

　ウ　夜更け　　　エ　夕暮れ

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 断定  　たり | | 断定  　なり | | 伝聞推定  なり | 基本形 |
|  | |  | | ○ | 未然形 |
|  |  |  |  | （　　） | 連用形 |
|  | |  | |  | 終止形 |
|  | |  | |  | 連体形 |
|  | |  | |  | 已然形 |
|  | |  | | ○ | 命令形 |
| 体言 | | 体言・  連体形 | | 終止形  （ラ変型には連体形） | 接続 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　としてにふる事、あにの礼たらむや。（平家物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　おのが身はこの国の人にもあらず。月の都の人なり。（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　秋風にがぞ聞こゆなる　がたまづさをかけてつらむ

（古今和歌集）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　ある修行者が薄気味悪い堂で不動明王を祈る呪文を唱えていたところ、異形の者たちが現れたが、その修行者が不動明王に見えたらしく、一夜を無事に過ごすことができた。この説話の筆者は何を伝えたかったと思うか。

ア　めったにない奇怪な事件。　　イ　神仏のありがたさ。

ウ　修行者の愚かな行動。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ａ＝断定　ｂ＝存続　ｃ＝完了　ｄ＝完了

②　Ⅰ＝Ｘ　Ⅱ＝Ｚ　Ⅲ＝Ｙ

③　新しき不動尊こそ居給ひたれ

問１　１＝つど　２＝お

問２　１＝じっと・つくづくと　２＝置く

問３　１＝イ　２＝ウ　３＝エ　４＝ア

問４　（伝聞推定なり）　○ ｜ なり ｜ なり ｜ なる ｜ なれ ｜ ○

　　　（断定なり）　　　なら ｜ なり・に ｜ なり ｜ なる ｜ なれ ｜ なれ

　　　（断定たり）　　　たら ｜ たり・と ｜ たり ｜ たる ｜ たれ ｜ たれ

問５　１＝断定・未然形　２＝断定・終止形　３＝推定・連体形

問６　（例）イ　不動明王が、修行者を不動明王に見せて、異形の者に襲われないようにしてくれたと思われるから。

　　観点　世俗説話に分類されるものの中にも、仏教説話的な内容のものもある。アの「奇怪な事件」やウの「愚かな行動」なども、世俗説話にはよく見られるテーマである。

【現代語訳】

問３　１　ある受領の家来で、人に勇猛（な男である）と思われたいと思って、なんとも言えないほど勇者ぶっている者がいた。

　　　２　狭いといっても、夜に寝る場所はあり、昼に座る場所もある。

　　　３　私が毎朝毎晩見る竹の中にいらっしゃることによって知った。

　　　４　明け方のそっけない月のように（あなたが）薄情に見えたあの別れ以来、夜明け前ほどつらく情けないものはない。

問５　１　（地位の）低い者であって高い地位の人に逆らう事は、どうして人臣の礼であろうか、いや礼ではない。

　　　２　私の身はこの国の人ではない。月の都の人である。

　　　３　秋風が吹いて、聞こえてくるのは初雁の鳴き声のようだ。誰の手紙を持って来たのだろうか。